

# 小島 順彦

今

年2月に「日本のイノベーション戦略委員会」の提言を発表した。グローバル化への対応や少子高齢化など、日本社会は多くの課題に直面している。そこで、課題の克服には、幅広い意味でのイノベーションが必要不可欠であると考え、本委員会が2年前に設立された。委員会の1年目は、イノベーションのプロセス、要件、そして要素を整理した上で、日本社会のイノベーションを促進させる「戦略」を検証し、2年目はその戦略を実現するために必要なアクションの検討に取り組んだ。

検証の結果、まず日本人はイノベーションに適した資質を持ちながらも、近年は変化を拒む硬直化した社会構造と日本社会の均質性という2つの要因によって阻害されているという結論に至った。そこで、これら阻害要因を打破するために、「開かれた社会」、「多様性のある社会」、そして「夢のある社会」に向けた3つの戦略を提唱して

## 日本社会のイノベーションへの戦略とアクション

副代表幹事  
2006年度日本のイノベーション戦略委員会  
委員長  
三菱商事 取締役社長



いる（詳しくは提言をご覧ください）。また、イノベーションを実現させるアクションのヒアリングで共通していたことは、組織の中のイノベーションを促進するには、最終的には組織の風土や文化を変えないといけない、という点である。企業の経営改革と同様に、トップが先頭に立って推進しないと風土も変わらない。よって、イノベーションを促進するには、トップがコミットし、自ら実行することが前提条件となる。その上で、委員会では「進むべき方向を示す」、そして「行動を変える仕組みを作る」という2つのアクションを提唱している。

こうした点から、日本社会のイノベーションには、トップのリーダーシップが必要不可欠であると言える。今の日本は景気の回復もあってか、改革への勢いが以前より弱まり、揺り戻しが起きている。そこで、今こそ日本社会のイノベーションの推進に向けて、改革の一層の推進、日本の教育制度の徹底的な見直し、そして日本が目指すべき中長期的な将来像をより具体的に示すなど、国のトップとして安倍総理の強いリーダーシップに期待したい。

## Contents

001 ● 巻頭言 小島順彦	日本社会のイノベーションへの戦略とアクション
002 ● 特集	桜井正光 新代表幹事に聞く
005 ● 特集	学校と企業・経営者の交流活動 活動報告
011 ● 委員長インタビュー	諮問委員会 有富慶二 社会保障改革委員会 門脇英晴 市場主義・民間主導社会のあるべき姿を考える委員会 氏家純一 格差を考える委員会 斎藤博明
015 ● リレートーク 鈴木正一郎	地球温暖化問題
016 ● 経済同友会最前線	第68回（2006年度第11回）TCERセミナー 他
027 ● 同友会スケッチ	2007年3月の記録と5月の予定
029 ● 新入会員紹介	2007年3月16日現在の入退会者
030 ● 私の思い出写真館 嶋雅二	サプライズの連続だった最初の海外旅行（昭和26年）